

情 報 提 供

年月日

令和7年7月29日（火）

担当課

義務教育課

担当者

授業力向上係 有留 正樹

仲川 克子

T E L

直通 0742-27-9830

内線 64923

（タイトル）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

（趣 旨）

令和7年4月17日（木）（中学校理科は4月14日から4月17日にCBT方式で調査）に実施された令和7年度全国学力・学習状況調査における調査結果の概要と今後の県の対応について、お知らせする。

1 調査の概要

(1) 実施日及び教科 令和7年4月17日（木） 国語、算数・数学、小学校理科
令和7年4月14日（月）～17日（木）中学校理科

(2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

(3) 調査内容

○教科に関する調査

小学校調査…国語、算数及び理科

中学校調査…国語、数学及び理科

・国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」 (= Paper Based Testing)）で実施する。中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム「MEXCBT」によるオンライン方式（「CBT」 (= Computer Based Testing)）で実施する。

・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

○質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」）を、児童生徒の活用するICT端末等を用いたCBT（生徒質問調査にあっては、MEXCBTによるCBT）で実施する。

(4) 参加状況（全国で公立小学校 18,313 校、公立中学校 9,311 校）

○本県（公立）

	実施校（校）
小学校	178
中学校	94
義務教育学校（前期課程）	9
義務教育学校（後期課程）	9
特別支援学校（小学部）	2
特別支援学校（中学部）	1

2 教科に関する調査結果の概要

国語、算数・数学、理科の全国、奈良県は公立の結果を示しています。

【小学校】

（上段：平均正答数 下段：平均正答率）

	国語		算数		理科	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
R7	9.4/14 問 66.8%	9.4/14 問 67%	9.3/16 問 58.0%	9.3/16 問 58%	9.7/17 問 57.1%	9.7/17 問 57%
[参考] R6 理科は R4	9.5/14 問 67.7%	9.3/14 問 67%	10.1/16 問 63.4%	10.1/16 問 63%	10.8/17 問 63.3%	10.3/17 問 61%

【中学校】

（国語・数学は、上段：平均正答数 下段：平均正答率、理科は IRT スコア）

	国語		数学		理科	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
R7	7.6/14 問 54.3%	7.4/14 問 53%	7.2/15 問 48.3%	7.1/15 問 47%	503	492
[参考] R6 理科は R4	8.7/15 問 58.1%	8.4/15 問 56%	8.4/16 問 52.5%	8.3/16 問 52%	10.4/21 問 49.3%	10.0/21 問 48%

※平成 29 年度から、国からの各都道府県の平均正答率の提供が整数値となったため、奈良県の平均正答率は整数値で示しています。

※IRT スコアとは、項目反応理論 (IRT) に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表したものです。

3 児童生徒質問調査結果の概要（＊質問事項は、小学校71項目、中学校72項目から抜粋）

○学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

 前回調査より上昇

質問		奈良県	全国	差	県R06	県R05	県R04	県R03
前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、 資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （発表していた、どちらかといえば発表していた）	小	68.5	68.6	-0.1	67.6	61.9	63.1	59.7
	中	57.0	63.0	-6.0	60.3	57.2	56.6	52.7
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、 自分で考え、自分から取り組んでいましたか （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	78.1	80.3	-2.2	80.8	76.5	73.4	75.3
	中	68.1	77.7	-9.6	73.0	72.9	72.5	76.4
前学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、 自分の考えをまとめる活動を行っていましたか （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	72.4	77.8	-5.4	76.2	68.2	65.1	—
	中	55.6	70.6	-15.0	61.7	55.1	52.0	—

○ICTを活用した学習状況

質問		奈良県	全国	差	県R06	県R05	県R04	県R03
前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、 どの程度使用しましたか （ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上）	小	86.2	89.7	-3.5	82.0	87.9	84.5	—
	中	86.0	92.2	-6.2	83.1	84.5	74.8	—
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる と思いますか （とてもそう思う、そう思う）	小	79.5	81.8	-2.3	—	—	—	—
	中	79.2	83.6	-4.4	—	—	—	—
あなたは自分が インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる と思いますか （とてもそう思う、そう思う）	小	88.7	89.8	-1.1	—	—	—	—
	中	89.4	91.5	-2.1	—	—	—	—
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って 情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる と思いますか （とてもそう思う、そう思う）	小	64.2	69.3	-5.1	—	—	—	—
	中	53.5	63.3	-9.8	—	—	—	—
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる と思いますか （とてもそう思う、そう思う）	小	71.5	76.7	-5.2	—	—	—	—
	中	67.3	76.6	-9.3	—	—	—	—

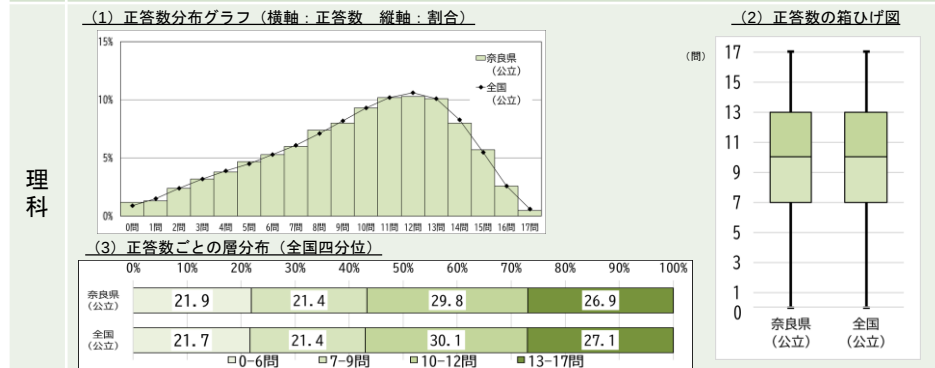
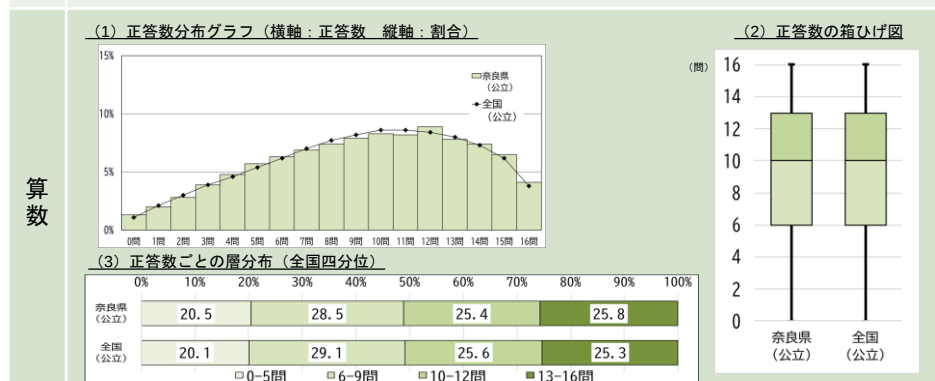
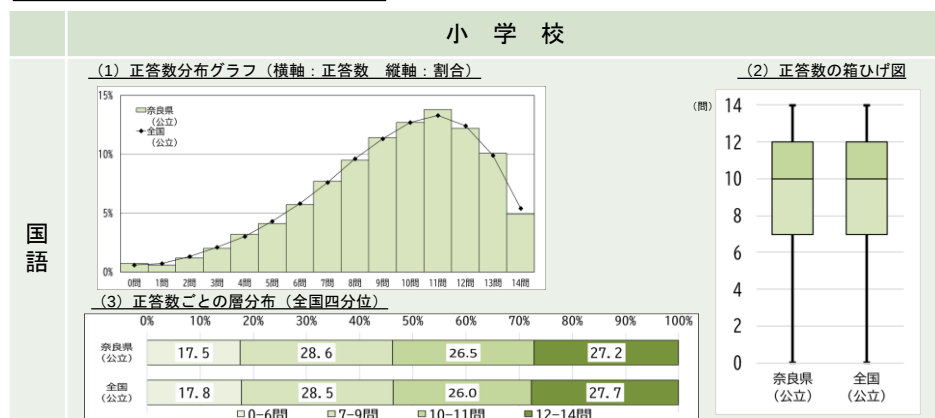
○挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

質問		奈良県	全国	差	県R06	県R05	県R04	県R03
自分には、よいところがあると思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	87.0	86.9	0.1	83.7	83.0	77.9	74.4
	中	84.8	86.2	-1.4	80.7	77.9	73.5	71.6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	93.9	92.2	1.7	91.0	89.8	87.3	—
	中	90.9	92.2	-1.3	88.1	85.4	83.2	—
将来の夢や目標を持っていますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	82.8	83.1	-0.3	80.7	79.7	78.5	78.7
	中	64.2	67.5	-3.3	63.1	62.6	65.7	64.5
人が困っているときは、進んで助けていますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	93.7	93.7	0.0	92.8	91.2	88.6	87.9
	中	89.1	90.9	-1.8	87.9	86.4	86.8	86.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	71.5	70.6	0.9	67.9	67.1	65.9	—
	中	70.4	73.2	-2.8	64.5	63.0	62.6	—
人の役に立つ人間になりたいと思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	96.8	96.4	0.4	96.0	96.1	95.7	95.7
	中	95.9	96.6	-0.7	93.9	93.8	94.6	93.9
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	77.0	78.1	-1.1	75.2	74.5	70.3	66.9
	中	71.7	79.2	-7.5	70.7	73.3	70.6	68.6
友達関係に満足していますか (当てはまる、どちらかといえば当てはまる)	小	91.6	91.7	-0.1	91.6	90.5	—	—
	中	89.6	91.4	-1.8	89.2	88.6	—	—
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (よくある、ときどきある)	小	93.7	93.0	0.7	92.1	91.0	—	—
	中	91.2	91.6	-0.4	89.6	87.4	—	—

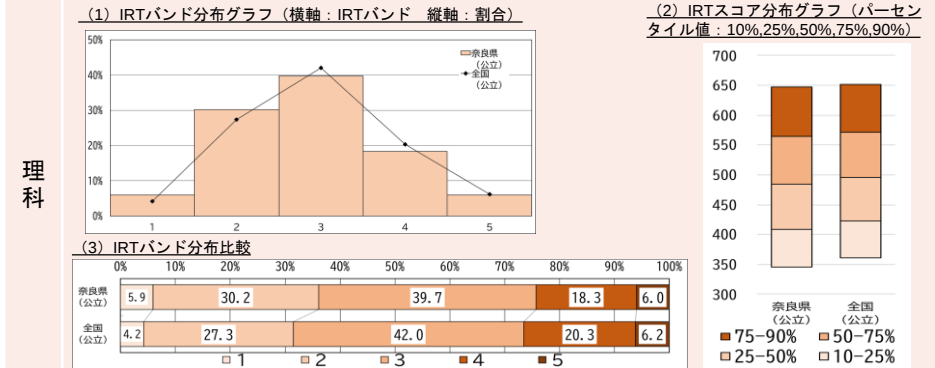
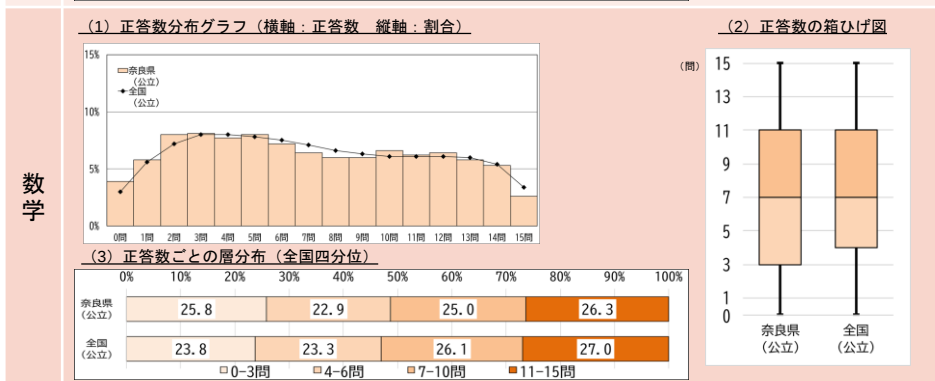
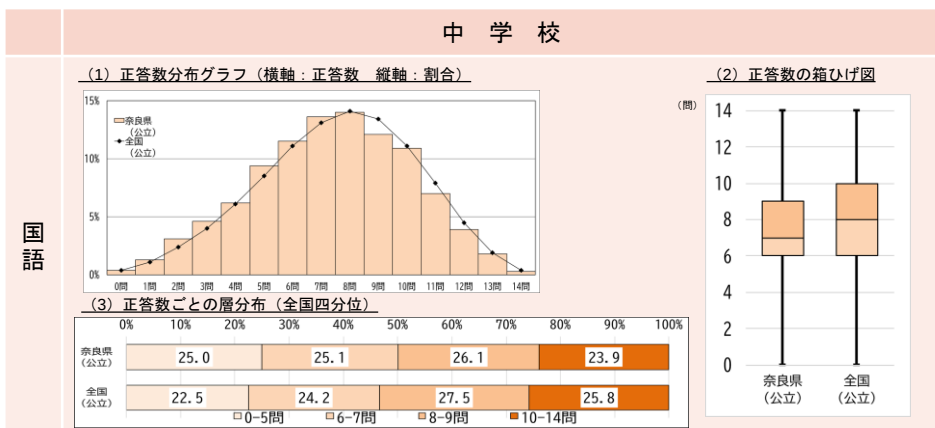
4 今後のスケジュール

- 令和7年8月末に、全国学力・学習状況調査の結果を活用した指導改善について、市町村教育委員会担当者を対象に説明会を、9月以降に、各教科等研究会と連携し、義務教育諸学校教員を対象に説明会を実施する。
- 令和8年2月に、県内小・中学校12校における「学ぶ力育成実践研究事業」の取組について、市町村教育委員会担当者及び義務教育諸学校教員を対象に研究成果等の報告会を実施する。

1 各教科調査の結果について



- 小学校国語、小学校算数、小学校理科ともに、奈良県（公立）と全国（公立）の正答数の分布に大きな差は見られません。
- 各児童の正答数の散らばりを表した箱ひげ図や、正答数を4つの層に分け、それぞれの人数の比率を示した層分布のグラフを比較しても全国（公立）と大きな差は見られません。

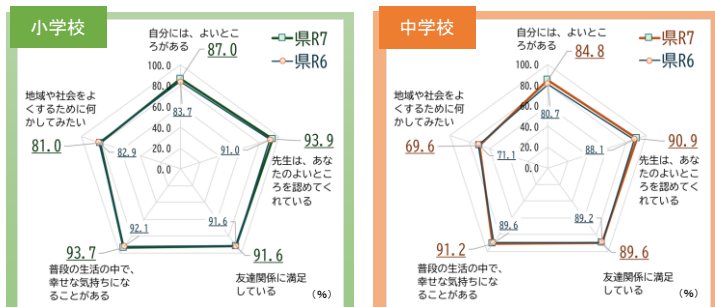


- 中学校国語は、正答が7問以下の生徒の割合が、中学校数学は正答が6問以下の生徒の割合が、それぞれ全国（公立）と比べ、高い傾向が見られます。
- 中学校理科では、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったIRTバンドの2及び1に属する生徒の割合が、全国（公立）と比べ、高い傾向が見られます。

2 児童生徒質問調査の結果について

（1）挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

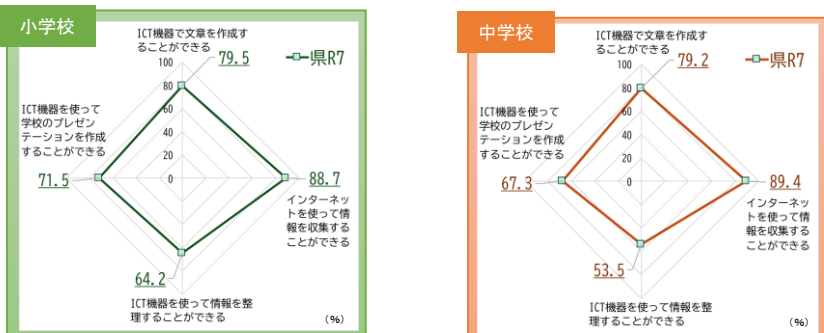
児童生徒のウェルビーイングの状況に関する質問項目に対する肯定的回答の割合



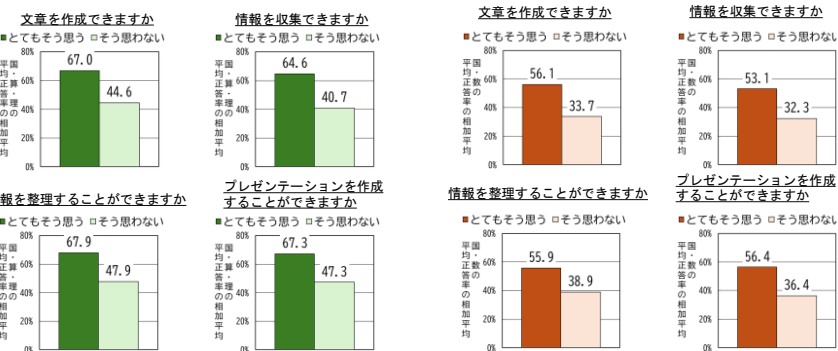
- 「自分には、よいところがある」に肯定的に回答した児童生徒は、令和6年度より微増しました。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」に肯定的に回答した児童生徒は約9割でした。

（3）ICTを活用した学習状況について

ICTを活用する自信に関する質問項目に対する肯定的回答の割合



ICTを活用する自信に関する選択肢ごと（とてもそう思う、そう思わない）の平均正答率



- 約8割の児童生徒がICT機器で文章を作成することができる、約9割の児童生徒がインターネットを使って情報を収集することができると考えています。
- ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

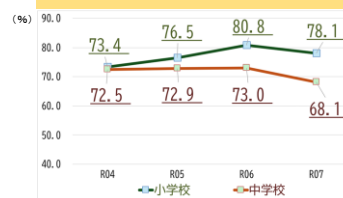
（2）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況について

主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える（とてもそう思う、そう思う）児童生徒の割合の経年変化

授業で工夫して発表していた



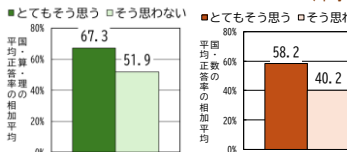
課題の解決に向けて自分から取り組んでいた



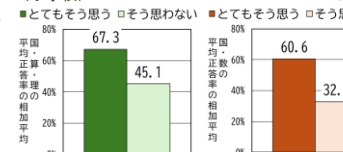
学んだことを生かしながら考えをまとめていた



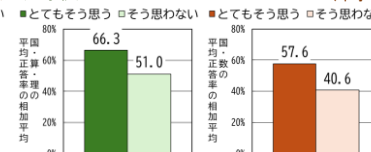
「授業で工夫して発表していますか」と正答率とのクロス集計



「課題の解決に向けて自分から取り組んでいますか」と正答率とのクロス集計



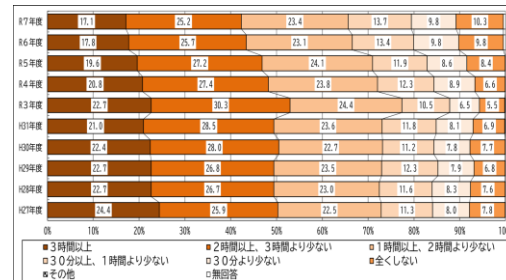
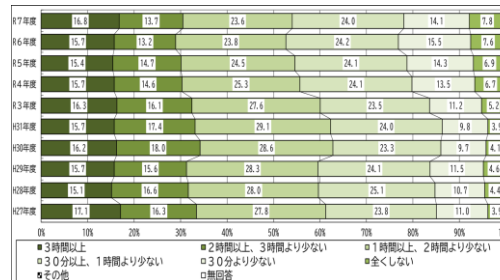
「学んだことを生かしながら考えをまとめていますか」と正答率とのクロス集計



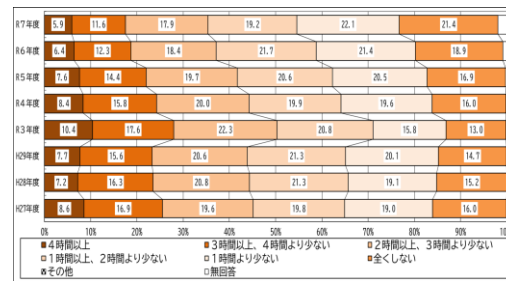
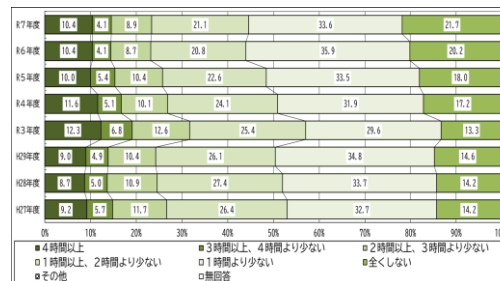
- 約8割の児童、約7割の生徒が課題の解決に向けて自分から取り組んだと考えています。
- 令和6年度と比べて、ほとんどの質問項目で肯定的に回答した児童生徒の割合が減少しています。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

（4）学校外での学習状況について

平日の学校の授業時間以外の勉強時間に関する回答状況の経年比較



休日の勉強時間に関する回答状況の経年比較



- 学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小学校、中学校とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向にあります。
- 昨年度と同様に、約2割の児童生徒が休日に勉強を全くしないと回答しています。